

改訂版／私の独り言、成岡 市

(令和3(2021)年3月)

■「定年退職」ということ

80歳になられた恩師(故人;享年92)が「老人とはこういうものか、ということを実体験しているよ」と仰ったことがあります。私と33歳の年齢差がありました。「ヘ〜」と何気なく応えましたが、私自身が65歳となり、間もなく定年退職を迎える今、「定年とはこういうものか」ということを実体験しています。

還暦を過ぎた頃から覚悟を決めていましたが、こんなに速く定年を迎えるということは想像がなく、遙か先にある出来事と思っていたのです。

東北から東京に戻り、大学の学部研究生3年間を経た後、職場から給料をようやくいただけるようになって、さらに30年少しを足すと現在になります。

30歳を過ぎた社会人新人の頃、私学では「有給助手」と呼ばれ、1年ごとの契約更新が必要でした。周囲から遅咲きと言われましたが、当人はまったく鈍感で焦りも何もありませんでした。それから助手、講師、助教授を経て、平成16(2004)年3月、岡山から三重に移っています。津での在任期間はおよそ17年。大学は違っても「号俸級が異なる昇格」という履歴となったことを知りました。

それまでの間、恩師、先輩、そして多くの人々に囲まれることがあると思えば、遠ざかる人もいました。「それらはいったいどういうことなのだろう」と考えているうちに今になってしまったのです。「身から出たサビ」という反省が当たりです。気が付いたらここにいることだけが「私の人生」と諦めかけています。

私の母は40年ほど前に他界しています。東北生まれの我慢強い人でした。父は津に移ってから6年ほど介護生活を送り、力尽きました。東京生まれの職人でした。私には自慢の二人です。墓石は東北と東京の両方に向かうようにして建てられています。

論文のヒット作はありません。しかし、幸いなことに言葉遣いを大切にする用語事典やハンドブックなどの編集者・共著者にさせていただいたことは「私の宝、大切な経験」と思っています。

「言いたいことがあれば言え」とご指導いただけるならば、言葉を絞りだして作文していたかもしれません。今となってみれば、その勇気も元気も失せてしまっています。

心境は、さあ定年退職後はどうしようかね、といったところです。おそらく、再び周囲から遅咲きと言われ、当人はまったく鈍感のままに過ごしていくのかもしれませんが。

ところで、3月末までに最終講義はやりません。コロナ禍にあって、人が集まる機会がないからです。遠隔開講(リモート式)もありますが、人前で、足を振るわせ、手に汗を握る緊張感あつての最終講義をやりたかったのです。当初、3月6日を決行日と予定していましたが、その日はすでに過ぎていきます。延期の助言が強かったので、今秋あたり津駅周辺でやってみようかな、と関係者と相談しているところです。

なお、退職後は三重大学主要キャンパスの呼称と同じ地名の場所に棲み着くつもりです。

(令和2(2020)年3月)

■学位記授与式の中止

勤務先では、新型コロナ・ウイルスの影響拡大を防ぐために、令和元年度学位記授与式(卒業式)を中止にしました。このような出来事は私には初めての経験です。学部の卒業生には極めて残念な出来事でしょう。

新しいランドセルを背負う年齢から、晴れ着やスーツ姿が目映い年齢までやっとのことで成長し、この長かった就学期間の最後の出口であり儀式が、本当は行われるべきでした。若者たちの門出を祝います。

(平成31(2019)年1月)

■三重県に移り住んでおよそ16年

定年までちょっとになりました。勤務先は百年になろうとする歴史・伝統を重ねています。老舗店に「暖簾をまもる」の言葉あり。

某ウイスキー会社に“OLD is NEW”の宣伝文句があります。もしかして、それは常に「今」、いつも「新」のことかな。

(平成27(2015)年1月)

■還暦の次は「緑寿」

「還暦」(かんれき)という、人にとって節目の年があります。

干支(十干十二支)が一巡して、起算点となった年の干支にふたたび戻り、数え年六十一歳(満六十歳)のことをいうのだそうです。

十二支を5回繰り返して、さらに半回りして六十六歳が緑樹と呼ばれるとのこと。これはどこかの百貨店が編み出した記念日だそうです。節目はいくらあってもいいと思っています。

ずっと昔のことです。ある著名な方が、さらに一回りも二回りも年長の先生が構える研究室にご挨拶にみえたときの事です。「私もようやく還暦になりました。ここまでご指導いただき、ありがとうございました。」とお礼の言葉を述べられました。その時、年長の先生の言葉は「君もようやく一人前になったね」でした。

書生としてたまたま同席していた私は四十歳にも満たない頃でした。年長の先生に「おまえのような若造は・・・」と鼻であしらわれてしまいました。今年、私はその還暦を迎えます。

■大学人

教育基本法に「学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探

究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。大学については、自主性、自律性その他の大学における教育及び研究の特性が尊重されなければならない」(第七条)とあります。

大学における教育・研究のあり方は、この基本法に基づき、自主的・自律的・創造的行為であり、社会貢献に寄与すること、そして誇りを持つことであり、そこに在るのが「大学人」と私は理解しています。

■アカデミック・リーダーシップ

利潤追求とは全く異なった価値があると考えます。リーダーシップは、その人の個性であり、その個性に対する周囲との関係性であり、私が理解しているそれは「無我の心境」です。

--- end of list ---